

SSHはどんなことをするのですか

1年生

- 1年生全クラスを対象に、学校設定科目「科学教養」

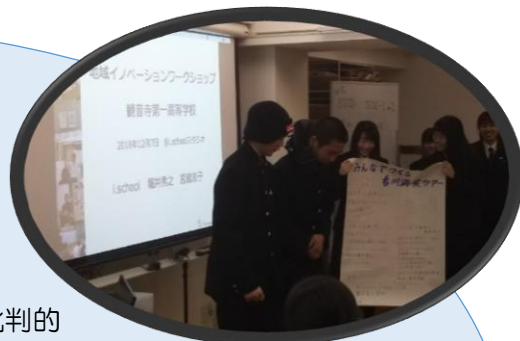
「科学探究基礎」を実施します。

「科学教養」の授業は、科学に対する興味・関心、論理的思考力や批判的思考力、表現力や発表力を育成します。

授業例：燃焼実験を通して自然現象を論理的に考える、文章の要約を通して論理的読解の技術・方法を体験的に理解する、表・グラフの読取等を通して統計的な物の見方・判断力を身につける、発音・イントネーションを工夫することで英語でのプレゼンテーションの技術を学ぶなど

「科学探究基礎」の授業は、統計分野と情報分野を中心に学習します。特色コース（2クラス64名）では、大学教授等によるサイエンスレクチャーと本校教員による講義や実験、観察等を行うサイエンスゼミを実施し、普通コース（5クラス178名）では、ミニ課題研究を行います。

- その他、希望者には大阪大学の研究室訪問や自然体験合宿を、特色コースでは東京方面への研修旅行を実施します。



2年生 普通科 理数科

1年生からの取組に引き続き、各科で以下の取組を進めていきます。

- 普通科理系・・・学校設定科目「課題探究」で、理科・数学に関する課題研究を実施します。
- 普通科文系・・・「文系課題探究」（総合的な学習の時間）で、人文・社会科学に関する論理的考察の方法を学びます。
- 理数科・・・学校設定科目「科学探究Ⅰ」で、大学、研究機関、企業との連携を密にして、課題研究を進めます。

- 希望者には、大学研究室体験等を、理数科ではアメリカへの研修旅行を実施します。



3年生 理数科

○ 理数科は、学校設定科目「科学探究Ⅱ」において、2年生からの課題研究を継続します。また、全国のSSH生徒研究発表会や中四国九州理数科課題研究発表大会、香川県高校生科学研究発表会など多くの発表会に出て、研究内容を英語でも表現できるよう学習を進め、論文にまとめます。



これらに加え、アクティブ・ラーニングやクロスカリキュラムを用いた授業を実施することを通して、すべての生徒が科学探究力を身につけられるよう、全教科が積極的な取組を行います。

本校が、科学技術人材重点校(広域連携)に！

本校は平成29年度より第2期SSH事業（基礎校）の指定を受け、高い志と科学的な問題解決・意思決定力の育成をめざし、全生徒による課題研究の実践を中心とする研究開発をすすめています。これに加えて、今年度から3年間、SSH事業科学技術人材重点校（広域連携）に指定され、統計・データサイエンス教育の充実を全国の高校や地元の小・中学校と連携しながら取り組むことになりました。

全国には約5,000校の高校があり、その内SSH指定校は212校ありますが、その中でもSSH重点校に指定された高校は18校しかありません。四国内では本校が初めてのことです。

(1) SSH重点校とは

この事業は、理数系教育における広域連携の拠点校として、SSH指定校として経験等で培った理数系教育のカリキュラムや指導法、評価法、関係機関とのネットワーク構築手法等を、管理機関（県教育委員会）の協力を得ながら、都道府県全体若しくは都道府県を超えて広域的に他校（SSH指定校以外の学校を含む）へ普及し、広く周辺地域全体の理数系教育の質の向上を図ることを目的としている。

(2) 本校で従来実施してきた「基礎校」との関係

- 基礎校の育成目標（「高い志」「科学的探究力」「国際性」の育成）と同じ。
- 重点校を実施することで、基礎校の目標に向かう推進力をアップさせる。

(3) 事業内容

※「文系」「理系」に関係なく、「統計」で、生徒に活躍と交流の場を設け、支援を充実させる。

①FESTAT（フェスタット：festa+statistics）

小中高大が連携し、統計分野の課題研究交流全国大会を7月に観音寺市のハイスタッフホール（観音寺市民会館）で開催する。

②TDI（東京データイノベーション研修）

データサイエンスとイノベーション教育を組み合わせた全国初のモデル事業を創出。12月に東京で実施。

(参考サイト)

文部科学省：平成31年度スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校の内定等について

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/03/1414953.htm